

登録コード	UAA27500	開講年度	2026				
授業題目	文化情報論実践演習			担当教員	菊池 聡		
				副担当	佐藤 広英・木村 宏人		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・6時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー該当							
(1)授業の達成目標				授業で得られる「学位授与の方針」		【授業の達成目標】	
2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学							
【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				文化情報論領域がカバーする行動科学（社会学、心理学など）の知見を継承し、現代の社会の諸現象を批判的に分析することができるようになる。			
【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				現代社会の諸現象を対象とした行動計量的なデータの収集と分析のスキルの一部を使いこなせるようになる。			
【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				オリジナルな視点からの研究プロジェクトを立案・実施・発表する過程で、自分の計画を実現するための十分なコミュニケーション力を身につけることができる。			
【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				文化情報論の複数の学問領域とその知見や分析方法を総合的に体験することで、学際的な調査分析能力を身につけることができる。			
(2)授業の概要		自己報告式の質問票（紙）を用いずに対象者の意識や行動を的確に把握する社会調査技法として、社会学や心理学でともに用いられる行動頻度や傾向を記録する行動観察法や、反応時間や正答率を記録する実験的手法を習得し、実際に応用的な調査とデータ分析を行う。まず共同の課題として、現代の高度情報化社会における諸問題や文化現象（消費者問題、SNS利用、サブカルチャー、広告など）から題材を選び、複数の行動調査法と実験計画法にもとづくデータ収集と分析を実施し、結果を考察する。これらの中で、概念の潜在連合を利用した潜在連合テスト(IAT)を活用する方法を実践的に理解する。その上で、学生は同じく社会文化事象に対するそれぞれの問題意識にもとづいて、オリジナリティのある研究対象と方法をディスカッションの上で設定し、適切な行動調査を行って成果をまとめ、発表と議論を行う。					
(3)授業計画		授業計画 第1回：行動分析研究の特徴について知る 第2回：行動観察法の研究事例 第3回：実験的手法の社会調査への応用研究事例 第4回：概念の潜在連合を利用した実験的手法とその応用事例 第5回：高度情報社会の社会文化現象を対象とした初回調査(1)の企画設計 第6回：実験計画法と要因配置について理解する 第7回：社会文化事象に関する行動データの収集と基本的整理 第8回：ANOVAを用いたデータ分析と結果のまとめ 第9回：学生による調査企画・問題設定 第10回：学生による社会文化事象についての調査(2)計画の立案と試行 第11回：IATもしくは類同の手法を試行したデータの整理と方法の改善 第12回：統計的なデータ処理 第13回：現代の文化事象という観点からの総合的な分析と結果の検討 第14回：情報化社会の課題解決につながる成果発表とディスカッション 第15回：全体の振り返りと発展事例について 期末試験の有無：無					
(4)成績評価の方法		行動調査や実験的手法と統計的分析の習得レベルと（50％）と調査の企画実施・最終成果発表(50%)の内容で評価する。					
(5)成績評価の基準		高度な社会調査技法と分析法が応用可能なレベルに習得され、かつ、クリティカルシンキングにもとづくリスク事象に対する多面的な考察が十分に深められていれば「卓越している」と評価する。社会調査技法と分析法が確実に習得され、かつリスク事象への独自の観点からの考察が行われていれば『かなり上にある』、標準的な調査と分析が完遂され、かつデータにもとづいた考察が行われていれば『その水準にある』と評価する					
(6)事前事後学習の内容		実験コントロールのためのプログラミング言語や統計分析ソフトなどについては、授業中に基本的な使用法を説明するので、各自が十分に応用可能なレベルで分析が実施できるように事前・事後学習を行うこと。					
(7)履修上の注意		本授業参加にあたっては、社会調査士取得相当、もしくは公認心理師取得相当の推測統計学の基本（統計的検定や多変量解析）が習得済みで、自力で統計的な分析の運用が可能であること。					
(8)質問、相談への対応		信州大学のLMSであるeALPS上に、質問や相談への対応システム（バーチャルオフィスアワー）を設定してこれを用いる。これに対応できない相談等は直接対応するので、eALPSのメールシステムから直接教員へメールし、アポイントメントを取ること。					
【教科書】		三浦麻子・佐藤寛(2018).『なるほど！心理学観察法』北大路書房					
【参考書】		潮村公弘(2016).『自分の中の隠された心-非意識の態度の社会心理学』サイエンス社 バナージ,M.R.(2015).『心の中のブラインド・スポット』,北大路書房 久本博行・関口理久子(2011).『Excelで心理学実験』培風館					